

シオミズツボワムシの高密度培養技術の検討

(予算区分 県単 研究期間 平成14～16年度)

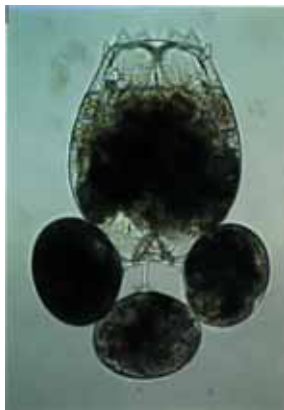
栽培漁業センター

【研究の背景とねらい】

魚類の量産では初期餌料としてシオミズツボワムシ（以下ワムシ）は不可欠ですが、大量の培養にはコストがかかる上、大きな水槽の管理は生産不安定のリスクを含んでいます。本年度は、ワムシの培養密度を上げる培養方法を検討しました。

【研究成果】

通常の培養密度である150～200個体/mlに対し、2,000個体/mlへ高めることを目標に培養を行いました。



シオミズツボワムシ(抱卵個体)



アルテミア孵化槽を用いた高密度培養

ワムシの餌としての濃縮クロレラの給餌量を変えて培養しました。

表 設定した実験区

実験区	給餌量	
	0日目	1日目
A	300	300
B	400	400
C	500	500
D	600	600
E	600	500
F	500	600
G	400	600

培養密度500個体/mlのワムシに濃縮クロレラを600ml/億個の割合で給餌することにより2,000個体/mlの高密度培養が可能でした

【成果の普及方法】

平成17年度より種苗量産が委託化されるので、その生産システムに組み込まれるよう指導します。

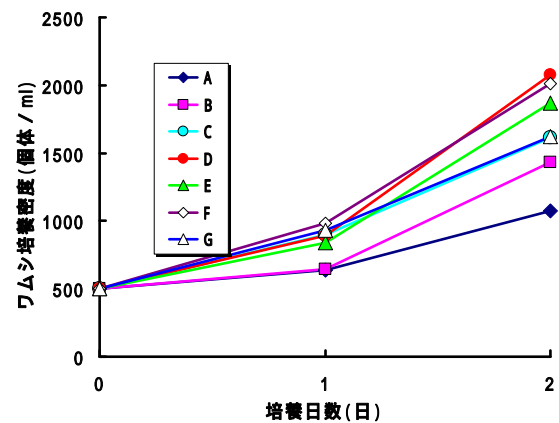


図 ワムシ密度の変化

(作成 平成17年3月)